

取扱説明書

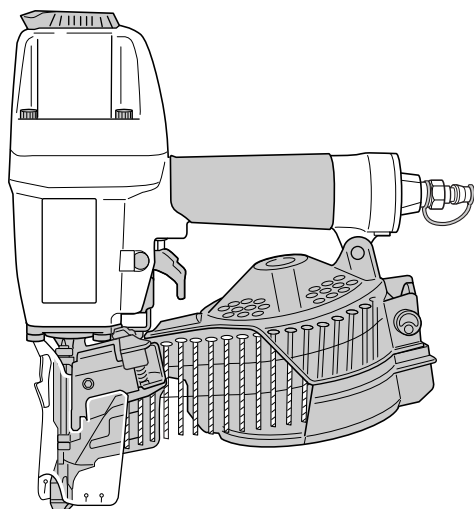
用途

- 木箱、パレットなどの製造
- 一般梱包作業

ロール釘打機

NV 65AL

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、
ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、
正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に
大切に保管してご利用ください。



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

釘打機の安全上のご注意	1
本製品の使用上のご注意	7
各部の名称	8
標準付属品	8
仕様	9
別売部品	10

はじめに

ご使用前の準備・点検	11
釘の装てん	13
釘の打ち方	15
釘を打つ	17

使い方

保守・点検	20
エアコンプレッサと作業の速さ	24
使用潤滑油	24
ご修理のときは	裏表紙

その他

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠警告」、「⚠注意」、「注」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、「⚠注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

釘打機の安全上のご注意

- けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

作業前

① 保護メガネを使用してください。

- 作業中は、保護メガネを使用してください。
- まわりの人にも保護メガネをかけさせてください。
釘を連結している針金・プラスチックの破片や、打ち損じの釘が目当たると、けがの原因になります。

①



② エアコンプレッサ以外の動力源は使用しないでください。

釘打機は、エアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（酸素、アセチレン、プロパンなど）を使用すると、爆発の恐れがあり、事故の原因になります。

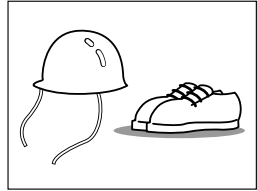
②



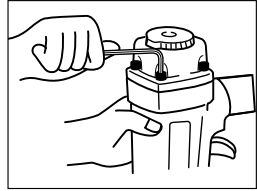
警告

- ③ 機体の排気音や排気空気から耳を保護するため、防音保護具を着用してください。
- ④ 作業環境に応じてヘルメット、安全靴などの防具を着用してください。
- ⑤ きちんとした服装で作業してください。
- ⑥ エアホースを接続する前に、次の点検をしてください。
 - ねじ類がゆるんでいないこと。
 - 損傷したり、はずれている部品がないこと。
 - さび付きなどで、正常に動作しない部品がないこと。
 - プッシュレバーがスムーズに動くこと。異常があるまま使用すると、けがや機体の破損の原因になるので、異常があるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- ⑦ エアホースを接続するときは、次のことに注意してください。
 - 引金に手を触れない。
 - プッシュレバーの先に触れたり、押し上げた状態にしない。
 - 射出口を人体に向けない。
誤って釘が発射した場合、けがの原因になります。
- ⑧ 釘を装てんする前に、エアホースを接続し、次の点検をしてください。
 - エアホースを接続ただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
 - 空気漏れや異常音がしないこと。異常があるまま使用すると、事故やけがの原因になるので、異常があるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

④



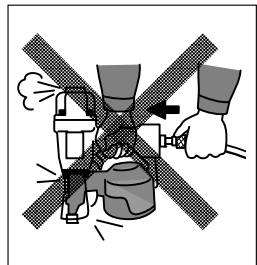
⑥



⑦



⑧



警告

⑨ 使用前に安全装置の点検をしてください。

この機体は、プッシュレバーと引金の両方を作動させないと、釘が発射されない構造になっています。釘を装てんする前に、エアホースを接続し、引金のロックを解除して、次の点検をしてください。

- 引金を引いただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
 - プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけで、ピストンなどの作動音がしないこと。
- 異常があるまま使用すると、けがの原因になるので、異常があるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⑩ 用途にあった作業に使用してください。

- この機体は、木材または類似の材料への釘打ち作業を目的とした工具です。
- 指定された用途以外には使用しないでください。

⑪ 指定の釘を使用してください。

指定された釘以外のものを使用すると、けがや機体の故障の原因になるので使用しないでください。

⑫ 子供を近づけないでください。

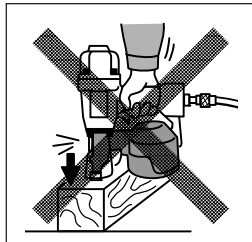
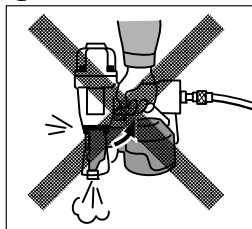
- 作業員以外、釘打機やエアホースに触れさせないでください。
- 作業員以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。

⑬ 作業場は、いつもきれいに保ってください。

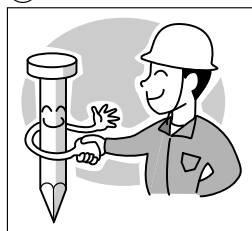
- ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- 作業場は十分に明るくしてください。暗い場所での作業は、事故の原因になります。

⑭ 作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

⑨



⑪



作業中

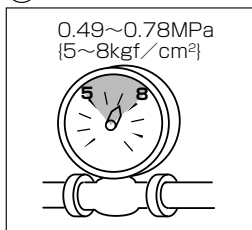
① 指定の空気圧力で使用してください。

この機体の使用空気圧力範囲は 0.49 ~ 0.78 MPa {5 ~ 8 kgf/cm²} です。

この範囲内で使用してください。

0.78 MPa {8 kgf/cm²} を超えた空気圧力で使用すると、機体の破裂や損傷の恐れがあり、けがの原因になります。

①

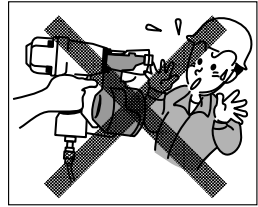


警告

② 人体に射出口を向けないでください。

人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。

②



③ 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。

誤って釘が発射したり、はね返って飛んだときなど、けがの原因になります。

③



④ 釘を打ち込む材料の裏側に、手や身体を置かないでください。

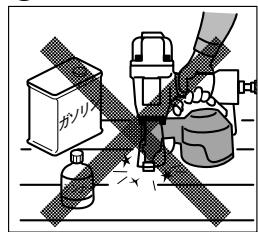
釘が突き抜けたり、材料が欠けたときなどに、けがの原因になります。

⑤ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

可燃性の液体やガス(シンナー、ガソリン、塗料、ガス類など)のある所で、釘打機やエアコンプレッサを使用しないでください。

釘を打ち込むときの火花による引火や、空気とともに吸引圧縮され、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

⑤



⑥ 釘を打ち込むとき以外は、引金に指を掛けないでください。

● 引金に指を掛けて、持ち運びしたり、手渡しなどをしないでください。

● 釘を装てんするときや調整などをするとき、引金に指を掛けないでください。

誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑦ 次の場合は、エアホースをはずしてください。

● 使用しない場合や作業中断時、使用後。

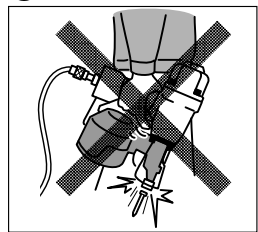
● 点検・修理・調整、釘づまりの直しなどの場合。

● 釘を装てんする場合。

● 釘打機を移動する際や手渡しする場合。

誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑥



⚠ 警告

⑧ 引金に指を掛けた状態でエアホースをはずさないでください。

引金に指を掛けた状態でエアホースをはずすと、次にエアホースをつないだとき、誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑨ 釘を打つときは、射出口を確実に対象物に当ててください。

一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。

釘がはね返ったり、機体が反発することもあり、けがの原因になります。

⑩ 作業中はまわりの人に注意してください。

- 釘を連結している針金・プラスチックの破片や、打ち損じた釘が当たる恐れがあり、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、下に人がいないことを良く確かめてください。

機体や材料を落としたときなど、事故の原因になります。

⑪ 薄い板や木材の端に釘を打たないでください。

薄い板に打つと釘が突き抜けたり、木材の角に打つと釘がそれたりして、けがの原因になります。

⑫ 機体の反発に注意してください。

硬い所に打った場合、機体がはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

⑬ 壁の両側から同時に釘打ち作業をしないでください。

打った釘が突き抜けたり、壁ぎわの釘がそれたりして、けがの原因になります。

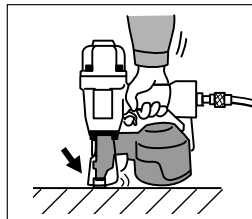
⑭ 無理な姿勢で作業をしないでください。

- 常に足元をしっかりとらせ、バランスを保つようにしてください。
- 転倒して、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、釘打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。
- 転倒や落下など、けがの原因になります。

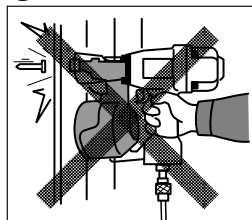
⑮ 屋外での作業は、次のことに注意してください。

- 高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに固定してください。
- 不意にエアホースを引っ掛けたりした場合、けがの原因になります。

⑨



⑪



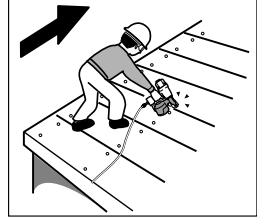
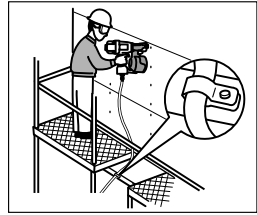
⑬



警告

- 屋根などの斜面で釘を打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。後退しながら作業すると、足を踏みはずす恐れがあり、けがの原因になります。
- 床などの水平面で釘を打つときは、前進しながら作業してください。後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。
- 壁などの垂直面に釘を打つときは、上から下へ作業してください。

15



- 16 油断しないで十分注意して作業を行ってください。
- 釘打機を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、まわりの状況など、十分注意して慎重に作業してください。
 - 常識を働かせてください。
 - 疲れているときは、使用しないでください。

- 17 エアホースをつかんで機体を移動しないでください。

- 18 誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことを良く点検してください。

内部の圧縮空気で破裂の恐れがあり、けがの原因になります。

- 19 使用中、機体の調子が悪かったり、異常を感じたときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

そのまま使用していると、けがの原因になります。

19



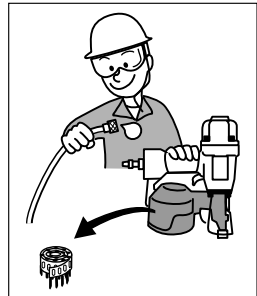
作業後

- 1 作業後は、エアホースをはずしてから、釘を全部抜き取ってください。

釘を残しておく、次に使用するとき、誤って作動させた場合など、けがの原因になります。

- 2 釘打機やエアコンプレッサ、エアセットは直射日光に長時間当たたまま放置しないでください。

1



警告

- ③ 釘打機は、注意深く手入れをしてください。
 - 安全に能率良く作業していただくために、釘打機は常に手入れをし、清潔に保ってください。
 - 付属品のお手入れは、取扱説明書に従ってください。
- ④ 使用しない場合は、きちんと保管してください。

乾燥した場所で、子供の手が届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑤ 部品をはずしたり、改造をしないでください。

安全性が損なわれ、けがの原因になります。
- ⑥ 釘打機の修理は、専門店で依頼してください。

修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。
ご自分で修理すると、事故やけがの原因になります。

本製品の使用上のご注意

先に釘打機して共通の注意事項を述べましたが、ロール釘打機として、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

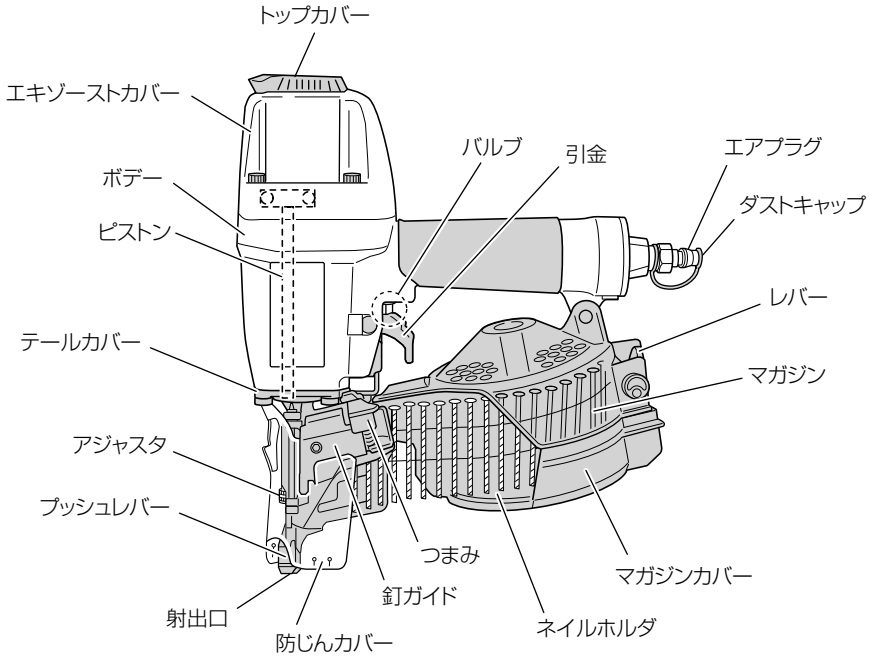
警告

- ① 防じんカバーをはずさないでください。
 - 作業中、釘を連結している針金やプラスチックの破片が飛散した場合、けがの原因になります。
 - 防じんカバーは、定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- ② 釘ガイドは完全に閉じ、使用中は開けないでください。

釘ガイドが開いた状態で作業をすると、釘がそれで発射する恐れがあり、けがの原因になります。
- ③ マガジンの開閉は慎重に行ってください。

釘の装てん状態で、射出口を下向きにしてマガジンを開けると、釘が落下して、けがの原因になります。

各部の名称



標準付属品

- ① 保護メガネ 1 個
- ② 油さし 1 個
(釘打機・タッカ用オイル入り)



仕 様

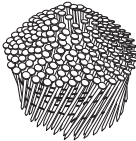
形 名	NV 65AL
動 力 形 式	ピストン往復動式
使 用 空 気 圧 力	0.49 ~ 0.78 MPa {5 ~ 8 kgf/cm ² }
能 力 (使 用 釘)	針金連結釘：45 ~ 65 mm } (P.10「別売部品」参照) シート連結釘：38 mm
釘 の 装 て ん 数	200本、300本(1巻)
製 品 の 大 き さ (長 さ × 高 さ × 幅)	266 mm × 300 mm × 128 mm
質 量	2.1 kg
釘 送 り 方 式	ピストン往復動式
使 用 エ ア ホ ー ス (内 径 / 長 さ)	エアホース (内径：7 mm 以上 / 長さ：30 m 以内)

別売部品 (別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。)

本機は、下図に示す針金連結釘、シート連結釘の2種の連結釘が使用できます。
また、形状は下図に示す釘を準備してあります。
釘打ち作業の用途に合わせて、表の中から適切な釘をお選びください。
釘はロール釘打機をお買い上げの販売店でお求めください。

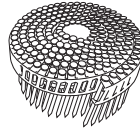
【針金連結釘】

1巻：300本

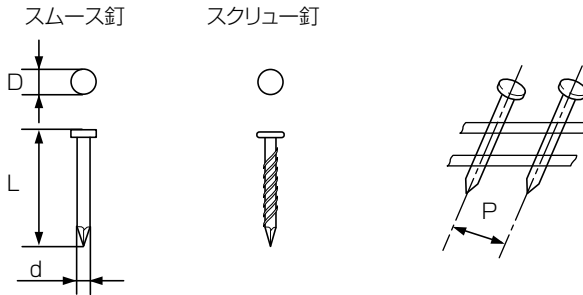


【シート連結釘】

1巻：200本



【釘の寸法・形状】



(寸法単位：mm)

連結方式	用途	材質	形状	長さ L	頭径 D	軸径 d	ピッチ P	釘の形名	1巻の釘連結本数
針金連結釘	一般木材	鉄	スムーズ	45	6.0	2.5	8.0	VS 2545	300
				50				VS 2550	
				57				VS 2550FU	
				65				VS 2557	
			スクリュー	57	6.0	2.6		VS 2565-2	
				65		2.5		VS 2565-2U	
								VS 2665NU(C)	
								VS 2557N	
				VS 2565N2					
シート連結釘		スムーズ	38	5.7	2.2	7.0	VP 2238	200	

ご使用前の準備・点検

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

●エアコンプレッサ、エアホースの準備

この機体に使用できる高圧エアホースの内径は 7 mm 以上です。エアホースをエアコンプレッサにしっかり接続してください。

注 エアホースの長さは、30 m 以内のものをお使いください。
エアホースが長いと圧力が降下して、十分な打ち込み力が得られません。

●空気圧力の確認

空気圧力は、釘打ち込み能力（釘の長さ、部材の硬さなど）に合わせて、0.49 ~ 0.78 MPa {5 ~ 8 kgf/cm²} の範囲で調整してお使いください。
空気圧力が 0.49 MPa {5 kgf/cm²} 未満または 0.78 MPa {8 kgf/cm²} を超えますと機体の性能、寿命、安全に影響しますので、使用空気圧力の範囲内で使用してください。

●エアコンプレッサのドレン除去

水や油が内部にたまりますと、さびの発生などで故障の原因になります。ご使用前には、エアコンプレッサの空気タンクのドレン抜きをゆるめて、内部にたまった水や油を除去してください。乾燥した清浄な圧縮空気を使用してください。（詳細はエアコンプレッサの取扱説明書をご参照ください。）

●釘の準備と安全点検

警告

- 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- 子供など作業員以外は近づけないでください。
- ねじ類がゆるんでいないことを、十分に点検してください。
- 損傷したり、はずれている部品や、さび付きなどで、正常に動作しない部品がないことを点検してください。

用途にあった釘を準備してください。（P.10「別売部品」参照）
P.20「保守・点検」を参照し、安全点検を必ず行ってください。

●給油について

- 必ず1日に2回以上給油してください。給油は、作業の前後に10～15滴の油をエアホース取付口から入れてください。作業前の油は潤滑油となり、作業後の油はさび止めとなります。
- 油は付属の油をご使用ください。その他、使用できる油をP.24に示しますので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。

- 注** ●給油直後空気を通すと、しばらくの間油が排気口より噴霧状に飛び散りますので油がかかっても支障のない所で2～3本釘を打ってから作業してください。
- 作業後給油した場合、釘を1本打ちますと油が内部に行き渡ります。

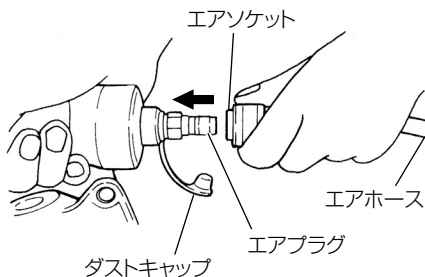
●エアホースの接続

⚠警告

機体にエアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 引金に手を触れない。
- プッシュレバーの先を台や床などにのせて、押し上げた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。

- ① エアプラグからダストキャップをはずします。
- ② ごみやほこりが内部に入らないよう、エアプラグの口元のごみをふき取ります。
- ③ エアソケットをエアプラグにしっかりとさし込んでエアホースを接続します。



釘の装てん

⚠警告

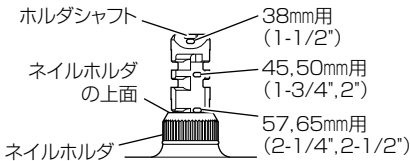
釘を装てんする場合は、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

マガジンに釘を入れる

1 レバーを押し、マガジンカバーを開きます。

2 使用する釘の長さに合わせてネイルホルダの高さ位置を調整します。

- ① ネイルホルダを約90°左に回します。
- ② ネイルホルダを上下に動かし、使用する釘の長さに合わせてホルダシャフトの目印の位置にネイルホルダの上面を合わせます。
- ③ ネイルホルダを“カチッ”と音のするまで(約90°)右に回します。



3 釘をマガジン内に入れます。このとき、釘の巻始め部をマガジンの開口部に入れますと、次の作業が簡単になります。

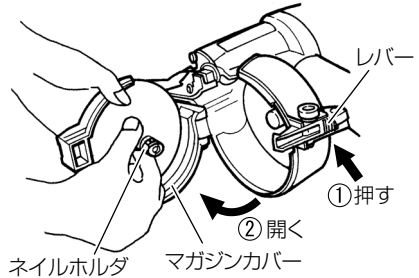
4 釘がマガジン内に完全に入っていることを確認し、マガジンカバーを閉じます。

⚠注意

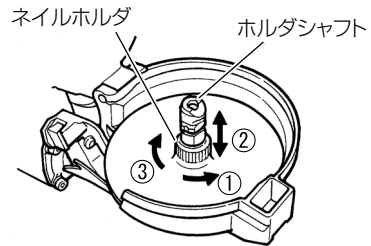
釘をマガジンに入れる前に、必ず使用する釘の長さに合わせて、適正な高さ位置にネイルホルダを合わせてください。

不適正な高さ位置で使用すると釘送り不良が生じます。また、不適正な高さ位置で無理にマガジンカバーを閉じるとネイルホルダなどを破損する場合があります。

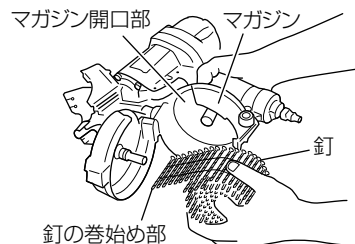
1



2



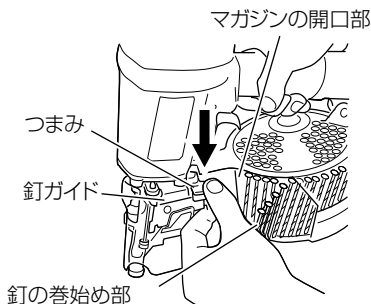
3



釘ガイド内に釘を装てんする

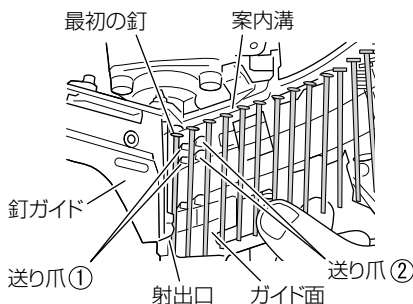
- 1 釘ガイドとつまみに指をかけ、つまみを下へ押ししてそのまま左へ開きます。
マガジン内から釘を引き出し、装てんします。

1



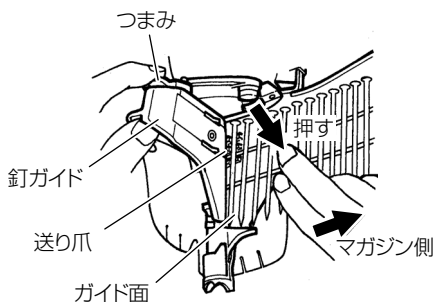
- 2 釘列の最初の釘を射出口の中に入れ、2本目の釘を送り爪①、送り爪②の間に入れて釘頭が案内溝に入るようにします。

2



釘ガイドを閉じる

釘をガイド面、送り爪に指で押しつけながら、マガジン側に引き寄せます。釘ガイドとつまみに指をかけ、つまみを下へ押ししながら、釘ガイドを右へ回して完全に閉じます。



以上で、釘の装てんが完了します。

注 次のような場合には、釘ガイドがうまく閉じないことや、釘が正常に送られずに空打ち、釘づまりなどが起こることがあるので、修正してから所定の位置に装てんしてください。

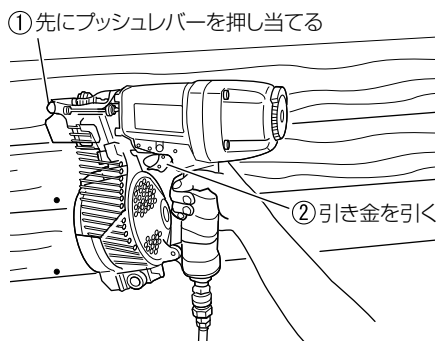
- 釘や連結シートが所定の位置に入っていない場合。
- 釘がガイド面から浮き上がっている場合。
- 釘を連結している針金などが大きく変形している場合。
- 連結シートから釘がはずれていたり、連結針金が切れている場合。

釘の打ち方

●断続的に打つ方法

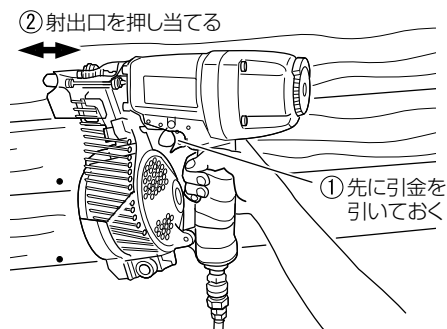
釘を打つところにプッシュレバーを押し当てて引金を引けば一撃で打込めます。

注 本体を強く押し付けた場合や打込み材が硬い場合などに二度打ちを生ずることがあります。このような場合は、引金にかけた指をすみやかにはなすような打ち方をしてください。



●連続的に打つ方法

初めに引金を引いておきます。その後、釘を打つ所に射出口を「トン・トン・トン」と押し当てれば釘が打ち込まれます。



● 打ち込み深さの調整

⚠ 警告

- アジャスタを調整するときは、必ず引金から手をはなし、エアホースをはずしてください。
- アジャスタを調整するときは、射出口を下に向け、顔や手・足などの人体がないことを確認してください。

- 注**
- 釘が沈みすぎるような高い圧力で使用すると機体の寿命を早めます。
 - アジャスタを回すときは、プッシュレバーを押し上げないでください。
 - 釘の頭が浮くようでしたら空気圧力を高い方に調整します。

打ち込み深さはコンプレッサの空気圧力とアジャスタを併用して調整します。

- ① アジャスタをもっとも沈む方向に回します。
- ② 下表を目安に用途と使用釘に応じたコンプレッサの空気圧力に設定します。
- ③ 試し打ちをして打ち込み深さをアジャスタで微調整します。

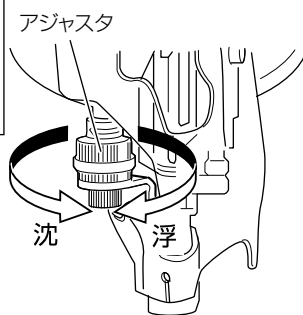
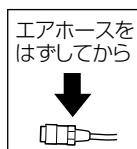
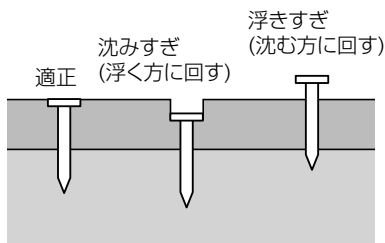
使用空気圧力、アジャスタ位置の目安

用途	使用釘	使用空気圧力
木下地打ち	φ 2.2 × 38 ~ 65 mm 釘	0.59 MPa { 6 kgf/cm ² }

試し打ちし、釘が沈みすぎるときはアジャスタを浮く方に回します。

釘の頭が浮くときはアジャスタを沈む方に回します。

アジャスタは 1 回転させるごとに 1 mm 移動します。



使い方

釘を打つ

⚠ 警告

- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 作業中は、まわりの人の安全確保にも十分注意をはらってください。
- 人体に射出口を向けないでください。
- 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。
- 一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。

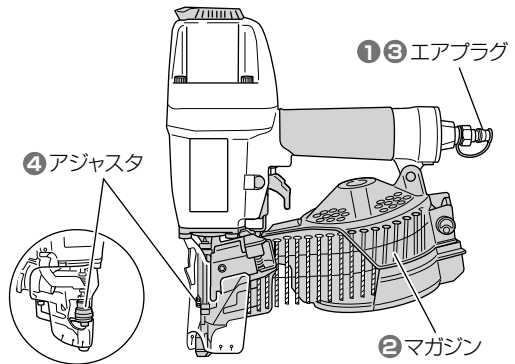
注 •低温時に使用すると、機体の動作が悪くなる場合があります。

•「空打ち」の注意

連続して釘を打っていると、釘がなくなったことに気がつかず、そのまま使用している場合があります。これを「空打ち」といい、空打ちを続けると各部に悪い影響を与えるので、空打ちをしないようご注意ください。

安全装置について

この機体は、プッシュレバーと引金が同時に作動しないと、釘が発射されない構造になっています。したがって、引金を引いただけのとき、または、プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけでは、釘は発射しません。これは、誤って引金を引いたり、プッシュレバーを押し当てただけで、釘が発射されることを防ぐためです。



警告

- 使用しない場合や作業中断時、使用後はエアホースをはずしてください。
- 作業後は、エアホースをはずしてから、釘を全部抜き取ってください。

注 作業後は、エアコンプレッサの空気を抜いて、空気圧力を0にしてください。ドレン抜きをゆるめると、タンク内のドレンが除去されると同時に、圧縮空気が抜けて空気圧力が0になります。

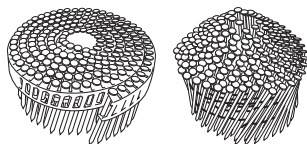
1 給油する

10～15滴の油をエアプラグから入れてください。
さび止めのため、作業後も給油してください。
(P.12「給油について」参照)



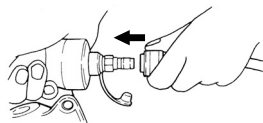
2 釘を装てんする

作業の用途に合った形状・寸法の連結釘をマガジンに装てんします。
(P.10「別売部品」、P.13「釘の装てん」参照)



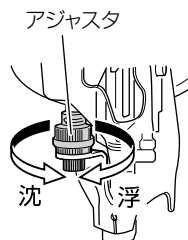
3 エアホースを接続する

エアホースのエアソケットをエアプラグにさし込みます。
(P.12「エアホースの接続」参照)



4 釘を打つ

必要に応じて釘の打ち込み深さを調整します。
(P.16「打ち込み深さの調整」参照)



● 排気方向の変え方

⚠ 警告

排気方向の調整をするときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

排気口の向きは、トップカバーをまわすことにより、360°の範囲で変えられます。

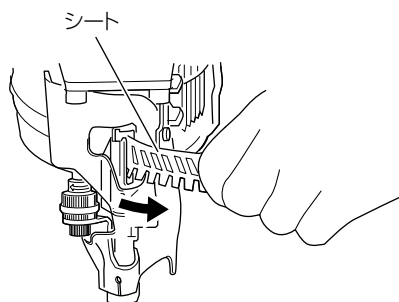


● 連結シートの切り方

⚠ 警告

連結シートを切るときは、必ず引金から指をはなしてください。

シート連結釘を使用して、出てきたシートは矢印の方向に引きちぎってください。



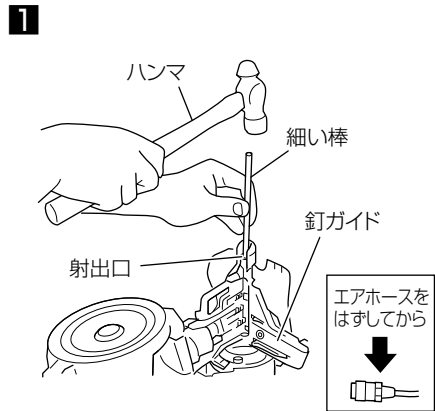
保守・点検

⚠ 警告

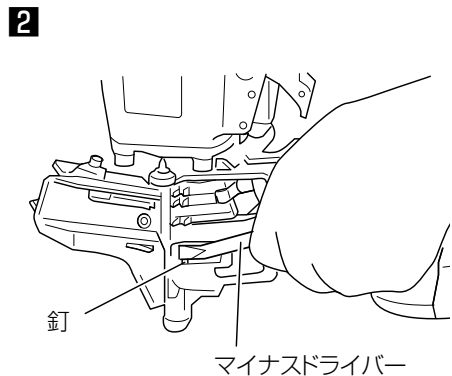
釘づまりを直すときや点検・手入れの際は、必ずエアホースをはずし、釘を全部抜き取ってください。

●釘づまりの直し方

- 1 釘ガイドを開いて、釘をマガジン内より抜き取り、射出口から細い棒を入れてハンマでたたきます。



- 2 内部につまった釘をマイナスドライバーなどで取除きます。



- 3 釘を連結している針金やプラスチックシートの変形した部分をニッパなどで切断し、再び、釘をセットします。

使い方

その他

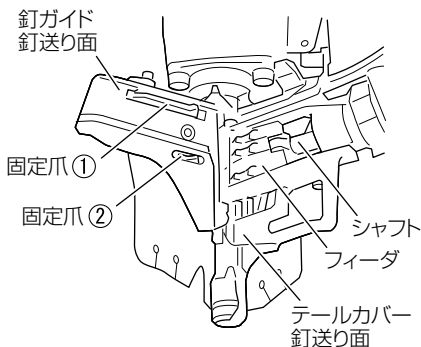
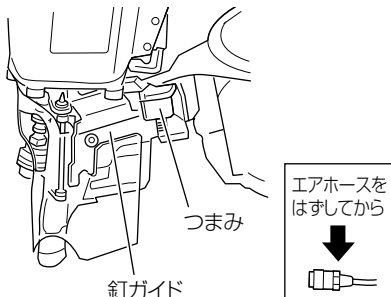
● 釘送り部の点検

⚠ 警告

固定爪①と固定爪②の動作がスムーズであることを確認してください。

スムーズに動作しないと、釘が後ろに曲がって打たれる恐れがあり、けがの原因になります。

- つまみの摺動部はときどき掃除し、付属の油を注油してください。
- 釘ガイドを開いて、付着しているごみやほこりを掃除し、フィーダの摺動する溝とシャフト部に付属の油を注油してください。
また、固定爪①と固定爪②を指で押し、スムーズに動作するか確認してください。
- テールカバーと釘ガイドの釘送り面も掃除後、付属の油をうすく塗ってください。油を注ぐことによりスムーズに動作すると同時にさび止めにもなります。



● 釘の取扱い方

注 ● 釘の扱いをていねいにしてください。

釘を落とすと、針金が切れたり連結シートから釘がはずれます。また、そのままの状態で使用すると釘送り不良により、空打ち、釘づまりなどが発生するため、使用しないでください。

● 釘は長時間外気や直射日光にさらさないでください。

さびの発生や、連結シートに不具合が生じる場合があるので、使用しないときは釘梱包箱などに入れてください。

● プッシュレバーの点検

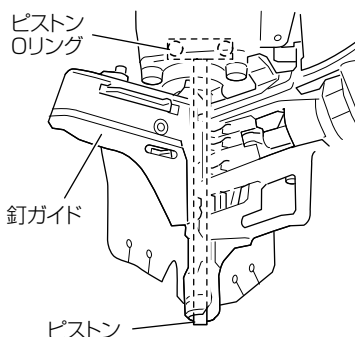
プッシュレバー（P.8「各部の名称」参照）がスムーズに摺動するか確認してください。プッシュレバーの摺動部は掃除し、ときどき付属の油を注油してください。油を注ぐことにより、スムーズに動作すると同時にさび止めにもなります。

● ピストンリングの点検

ピストンリングは、消耗品です。

射出口を下方に向け、釘ガイドを開けたときに、ピストンが下降しているときは、ピストンリングの交換時期です。

交換はお買い求めの販売店に依頼してください。

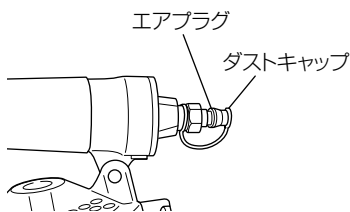


● マガジンの点検

マガジンをときどき掃除してください。中にたまったごみ、木くずなどを取除いてください。

● ごみ・ほこりの防止

使用しないときはエアプラグにダストキャップをつけ、機体内にごみが入るのを防いでください。



● 各部取付ねじの点検

各部取付ねじでゆるんでいるところがないか、定期的に点検してください。ゆるんでいるところがある場合は、締直してください。

●作業後の保管

警告

作業後は、釘を全部抜き取ってください。

注 エアプラグにダストキャップをさし込むときは、機体をさかさにして十分水抜きしてからさし込んでください。

- 作業後は、機体の内部にごみやほこりが入らないよう、ダストキャップをエアプラグにさし込み、保管してください。
- 長期間使用しない場合は、
 - さび防止のため、エアホース取付口から給油し、2、3回空打ちして油を内部に行き渡らせてください。
 - 鉄の部分やバルブの部分には油をうすく塗布してください。
 - 油は、付属の油をご使用ください。その他、使用できる油は P.24「使用潤滑油」を参照してください。なお、混用は避けてください。
- 気温が下がると、ゴム製部品の収縮で空気が漏れ、始動が悪くなる場合がありますので暖かい場所に保管してください。
- お子様の手の届かない乾燥した場所に保管してください。

エアコンプレッサと作業の速さ

エアコンプレッサは使用する作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）と使用空気圧力（MPa）の関係により、下表を目安にしてください。

作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）

使用空気圧力 エアコンプレッサ出力	0.44～0.49 MPa {4.5～5 kgf/cm ² }	0.49～0.59 MPa {5～6 kgf/cm ² }	0.59～0.69 MPa {6～7 kgf/cm ² }	0.69～0.78 MPa {7～8 kgf/cm ² }
0.4 kW	65～ 52本	52～ 35本	35～ 27本	27～ 22本
0.6 kW	100～ 81本	81～ 57本	57～ 44本	44～ 37本
0.75 kW	123～ 100本	100～ 69本	69～ 54本	54～ 45本
1.0 kW	123～ 101本	101～ 73本	73～ 60本	60～ 53本
1.1 kW	183～ 151本	151～ 109本	109～ 89本	89～ 76本

たとえば、0.64 MPa {6.5 kgf/cm²} の圧力で 1 分間に 60 本の速さで打ち込む場合（1 秒間に 1 本）は上の表から 0.75 kW のエアコンプレッサが必要となることがわかります。

- 連続して釘打ち作業をする場合には、別売の補助タンクの使用をおすすめします。

使用潤滑油

使用潤滑油は、別売の釘打機・タッカ用オイルをおすすめします。この油も含め使用可能な潤滑油は下表のとおりです。

油の種類	銘柄および品名
釘打機・タッカ用オイル	——— 【別途販売しております】
その他の オイル 〔市販品〕	ベビコン油 日立ベビコン用オイル
	エンジンオイル エンジンオイル各銘柄 SAE10W、SAE20W
	タービン油 タービン油各銘柄 ISO VG32～68 (#90～#180)

- 注** 潤滑油は必ず上表の油を使用してください。
不適正な油を使用すると動作不良の原因になります。

メ 毛

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へ
お問い合わせください。

お客様メモ


お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理
を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00～17:00

●フリーダイヤル

 0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待ちする場合があります。
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 896-1740	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点
をご確認いただけます。

<http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/sales.html>

WEBに
アクセス

バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取ることで、
最新の全国営業拠点をご確認
いただけます。



工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/>